



directed by
kon ichikawa
pizzicato five
re-presents

黒い十人の女

keiko kishi
mariko miyagi
tamao nakamura
fujiko yamamoto
kyouko kishida
yoshiko uno
chieko murai
masumi ariake
yuka konno
mayumi kurata
× eiji funakoshi
and crazy cats

planning hiroaki fuji / script natto wada
film shoot setsuo kobayashi / music yasushi akutagawa
distributed by DAI EI



directed by
kon ichikawa
pizzicato five
re-presents

黒い十人の女

keiko kishi
mariko miyagi
tamao nakamura
fujiko yamamoto
kyouko kishida
yoshiko uno
chieko murai
masumi ariake
yuka konno
mayumi kurata
× eiji funakoshi
and crazy cats

planning hiroaki fuji / script natto wada
film shoot setsuo kobayashi / music yasushi akutagawa
distributed by DAI EI



directed by
kon ichikawa
pizzicato five
re-presents

黒い十人の女

keiko kishi
mariko miyagi
tamao nakamura
fujiko yamamoto
kyouko kishida
yoshiko uno
chieko murai
masumi ariake
yuka konno
mayumi kurata
× eiji funakoshi
and crazy cats

planning hiroaki fuji / script natto wada
film shoot setsuo kobayashi / music yasushi akutagawa
distributed by DAI EI



directed by
kon ichikawa
pizzicato five
re-presents

黒い十人の女

keiko kishi
mariko miyagi
tamao nakamura
fujiko yamamoto
kyouko kishida
yoshiko uno
chieko murai
masumi ariake
yuka konno
mayumi kurata
× eiji funakoshi
and crazy cats

planning hiroaki fuji / script natto wada
film shoot setsuo kobayashi / music yasushi akutagawa
distributed by DAI EI

レディメイド、市川崑を讃える

いまから十数年前のある日、ぼくは京橋のフィルムセンターの試写室で『黒い十人の女』を観た。そしてその日、ぼくは市川崑を発見した。

もちろんぼくが「発見」するずっと以前から、市川崑は日本中の、そして世界の観客から愛され、評価されていた。『ビルマの豎琴』や『炎上』は数多の賞を獲ったし、『金田一シリーズ』は大当たりした。でもそんなことは昔の話だ。

『黒い十人の女』はリチャード・レスターの『ナック』よりも4年早かったし、市川崑はジャック・タチやジャック・ドゥミと違っていまも現役の監督だ。

この映画を観たら、今後は誰も市川崑をクロサワと比較などしなくなるだろう。

ぼくはこの『黒い十人の女』をあなたに是非観てもらいたい。そして『真夏の夜のジャズ』より、チャールズ・イームズの全ての映画より100倍素晴らしい『東京オリンピック』を観てもらいたい。ぼくはあなたにも市川崑を発見してもらいたい。

●小西康陽

京都みなみ会館にて2/7(土)~10(火)市川崑作品6本上映!

『黒い十人の女』を観る前に~市川崑の世界~ [各回入替制]

2/7(土) 12:20「鏡」2:20「おとうと」4:15「穴」6:00「トクショー」+「東京オリンピック」
2/8(日)・9(月) 10:30「あの手この手」12:15「愛人」2:00「穴」3:50「東京オリンピック」7:00「鏡」
2/10(火) 11:00「鏡」1:00「あの手この手」2:45「東京オリンピック」5:50「愛人」7:30「穴」

レディメイド、市川崑を讃える

5年ほど前のこと。「もし『ナック』の次にピチカート・ファイヴ・プレゼンツで映画をやるなら、『黒い十人の女』しかない」と思っているんですよ」と小西康陽さんにボソリと打ち明けられたときは、正直、びっくりした。氏が筆者と同じく市川崑マニアであり、あちこちで自分のファンに啓蒙活動(?)しているのは知っていたが、まさか、崑作品そのもののリヴァイヴァルまで企てていたなんて…!

70年代の「金田一もの」が、例えば和風明朝体の魅力なら、60年代の崑作品群は、そう、ヘルベチカ・デミボールドあたりのカチツとしたアルファベット書体がよく似合う洋風グラフィズムの世界で、『黒い十人の女』は、その中でもトンガリ度トップクラスの異色作。

マスコミ風刺か、ラブストーリーか、はたまたオフ・ビートなブラックコメディか…? 哀愁の女幽霊まで登場するこの“多面体映画”さて、どう観るかは自由だが、ちょっと一筋縄じゃいきませんぞ。

●森 遊机 (『市川崑の映画たち』共著者、私設コン・イチカフ応援団長)

京都みなみ会館にて2/11(日)・12(月)『黒い十人の女』先行上映!!

夜7:00~1回上映<当日券のみ>

一般¥1800/学生¥1500/市川作品ご覧の方¥1400

⇒市川崑の世界 当日(1プロ)¥1200均一

当日セット券(3プロ)¥2700

京都みなみ会館

<お問合わせ> RCS075-342-4050

九条大宮・近鉄東寺駅075(661)3993

レディメイド、市川崑を讃える

ゴダール、市川崑、ラス・メイヤー…と僕はよく三つの名前を並べてみる。映像と音響それぞれに過剰なまでのダイナミズムを持ち、そんな独自のスタイルを、長いフィルム歴にわたってますますエスカレートさせていった野心家たち。

そんな崑氏の作品中でも『黒い十人の女』は最も先鋭的な大傑作。特にグラフィカルなセンスの爆発ぶりは快感だ。闇とハイライトの強烈な対比だけがそこにあるシャープな冒頭シーン。スイッチャーを操作する指先のメカニカルなカッコよさ…表面的などという野郎にゃ「どこが悪い!」と吐き捨ててやりなさい。でもリアリティないよであるよなセリフ回しやモンタージュともども緻密にデザインされたクールさでもって暴かれるのは、ブラックな笑いに満ちた現代人の生態観察…それも男と女のディスコミュニケーションについてだったりするのであります。アントニオ・ニーなんてメじゃないぜ。

あ、崑映画といえばインパクト抜群のタイトルバック。端正にして豊麗な美しさはため息モノ。お見逃しなく。

●ミルクマン斉藤 (GROOVISIONS)

2月14日(土)~20日(金) 公開 3:00/5:05/7:10(~9:05)

2月21日(土)~4月3日(金) レイトショー 夜8:55~10:40 [日曜休映]

前売券発売中!! ¥1500 梅田ロフトB1 06(359)1080

劇場窓口、エスト1PG、チケットセゾン、チケットぴあ

にてお求め下さい。 <http://www.theatres.co.jp/cinemabox/>

テアトル梅田

レディメイド、市川崑を讃える

[introduction]

公開当時以来、殆ど観ることができず、ファンの間では市川崑の幻の傑作と言われてきた『黒い十人の女』。伝説の作品が36年ぶりにニュー・プリントで蘇る。妻がいるにもかかわらず、他に9人の愛人をもつテレビ・プロデューサー。たまりかねた女たちが共謀して男の殺害を企てた—。

荒涼とした現代人のディスコミュニケーションがフィルム・ノワール風に描かれ、フェリーニの「甘い生活」やアントニオ・ニーの作品を想起させる。グラフィカルな構図、光と闇のコントラストはまさに圧巻である。

主演は、モニカ・ヴィツィティよりクール・ビューティーな岸恵子、モノトーンのコート姿がフィルム・ノワール感漂う山本富士子、マストロヤンニも真っ青の“フラット”な船越英二。そして、特別出演のハナ肇とクレージー・キャッツがさりげなくファンキーなジャズをキメている。さらに「ゴダールやリチャード・レスターを彷彿させる」と噂の『ホワイティ・ライオン』も同時上映。この60秒のコマーシャル・フィルムは1966年に制作され、その後一度もオンエアされることのなかったまさしく幻の作品である。市川崑監督の冴えた演出と、加賀まりこのコケティッシュな魅力をお楽しみください。

『黒い十人の女』(1961) モノクロ/103分

<スタッフ> 監督 市川崑 / 製作 永田雅一 / 企画 藤井浩明 / 脚本 和田夏十

撮影 小林節雄 / 音楽 芥川也寸志

<出演> 岸恵子 / 山本富士子 / 宮城まり子 / 中村玉緒

岸田今日子 / 船越英二 / 伊丹一三 (現十三) / ハナ肇とクレージー・キャッツ

『ホワイティ・ライオン』(1966) コマーシャル・フィルム/企画主・ライオン映画 / 製作・TCJ / 代理店・電話 / モノクロ / 60秒

<スタッフ> 監督 市川崑 / シナリオ 和田夏十 谷川俊太郎 市川崑

撮影 長野重一 / 音楽 海渡謙二

<出演> 加賀まりこ

協賛 / ルージュ・ヴィフ 協力 / 日本コロムビア / 報知堂 配給 / 大映株式会社 ©

2月14日(土)~20日(金) 公開 3:00/5:05/7:10(~9:05)

2月21日(土)~4月3日(金) レイトショー 夜8:55~10:40 [日曜休映]

前売券発売中!! ¥1500 梅田ロフトB1 06(359)1080

劇場窓口、エスト1PG、チケットセゾン、チケットぴあ

にてお求め下さい。 <http://www.theatres.co.jp/cinemabox/>

テアトル梅田